

夷隅川の植物

- ・夷隅川流域の植物相の特徴
- ・現地踏査の概要

大場 達之

夷隅川の特異性

- 房総丘陵の特質
 - プレートの会合点に近く、地殻の隆起速度が速い
 - 地層は第三紀のやわらかい泥岩が主体である
 - 雨量が著しく多い
-
- 河川による地盤の浸食が速やかである

植物の生育環境から見た夷隅川の特質

- 源流部
- 礫がきわめて少ない
- 箱形断面の深い溪谷

夷隅川の植物の特徴

- (1) 夷隅川流域は、照葉林帯の中にありながら、渓谷の低温・多湿の環境に、夏緑林を本拠とするジャコウソウ、マルバタネツケバナ、マネキグサなどが生育し、特異な植生と植物相をはぐくんでいる。特に2008年に発見されたスズカケソウは日本における唯一の自生地と考えられ、きわめて貴重である。
- (2) 夷隅川の典型的な河畔植生は、水際にタチヤナギ、その上にメダケあるいはマダケ林、台地縁にケヤキあるいはエノキ、またはスタジイ林、タブノキ林があり、また低位河岸段丘にスギ植林が多い。夷隅川らしい河岸の景観を保持・再生するためには、川岸に自然的な植生を維持、あるいは回復をさせることが重要である。
- (3) 上流の箱状断面の渓谷や、中流部の著しい曲流部の景観は、夷隅川の個性をよく表す自然遺産と考えられる。この特徴的な河川景観を、植生とともに保持することを望みたい。



西畑川 田代滝



大野川

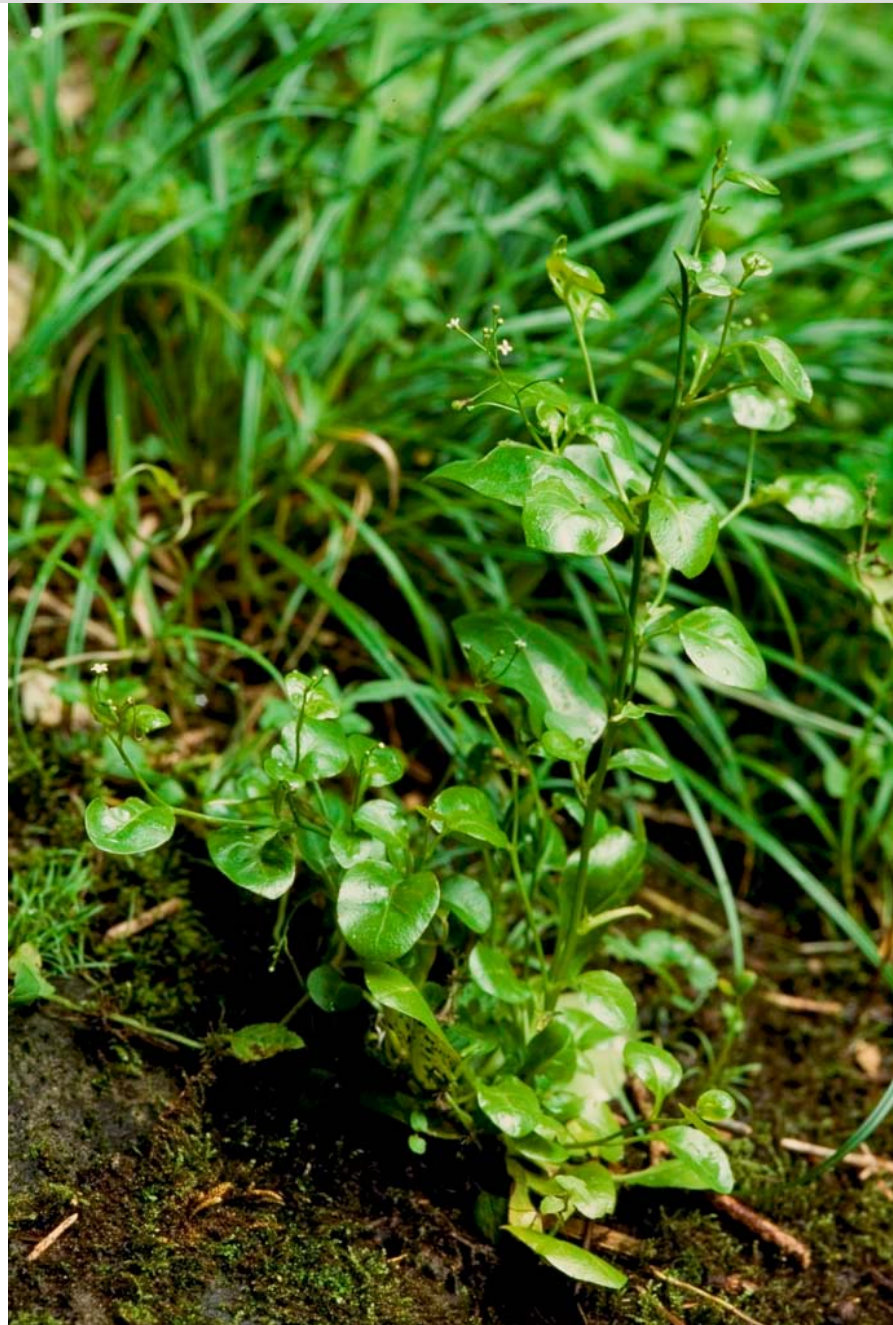


スズカケソウ



スズカケソウ

ハイハマボッサ



(環境省レッドデータ絶滅危惧Ⅱ類)

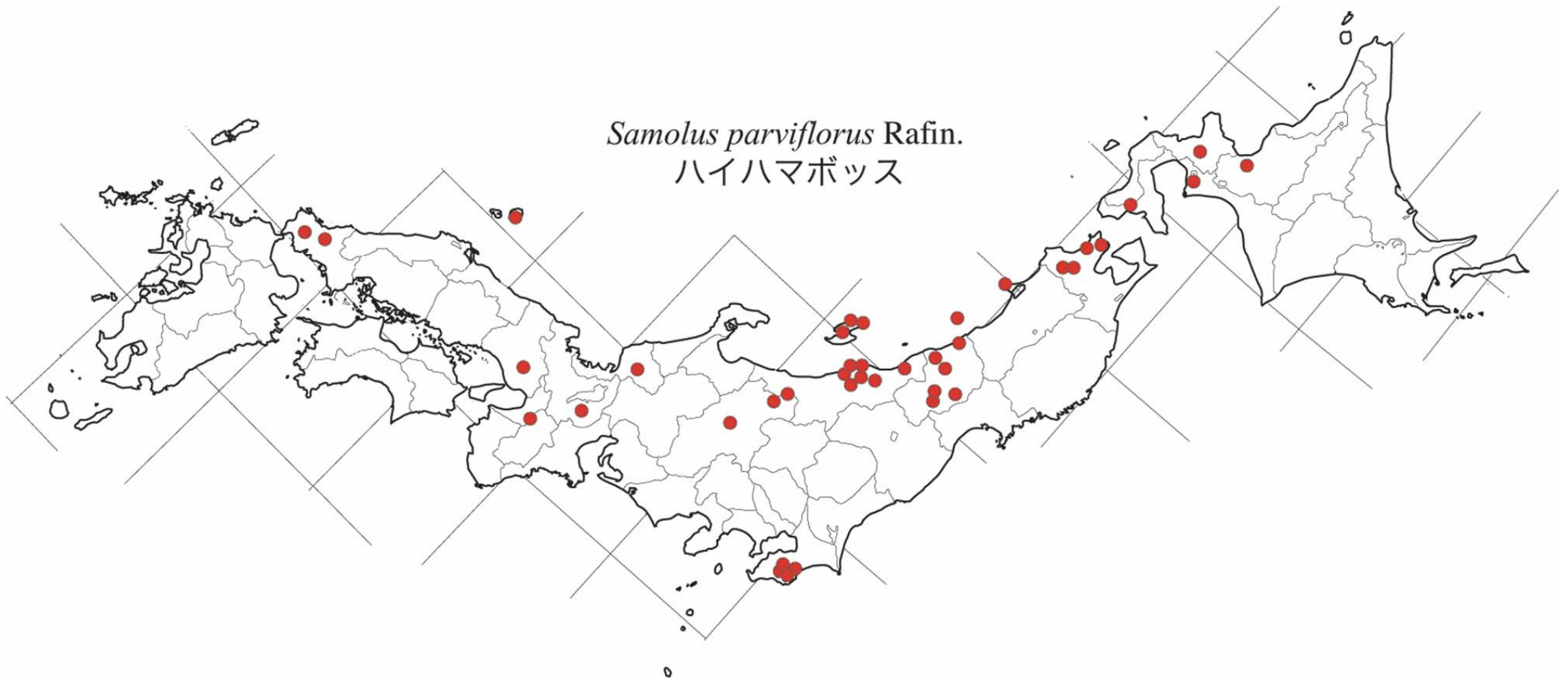
環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている貴重種。
夷隅川沿いに生育する可能性がある。
河川整備にあたっては注意が必要。

。



ハイハマボッサが見られた谷底の湿地

ハイハマボッサ分布



2.現地踏査の概要

踏査日

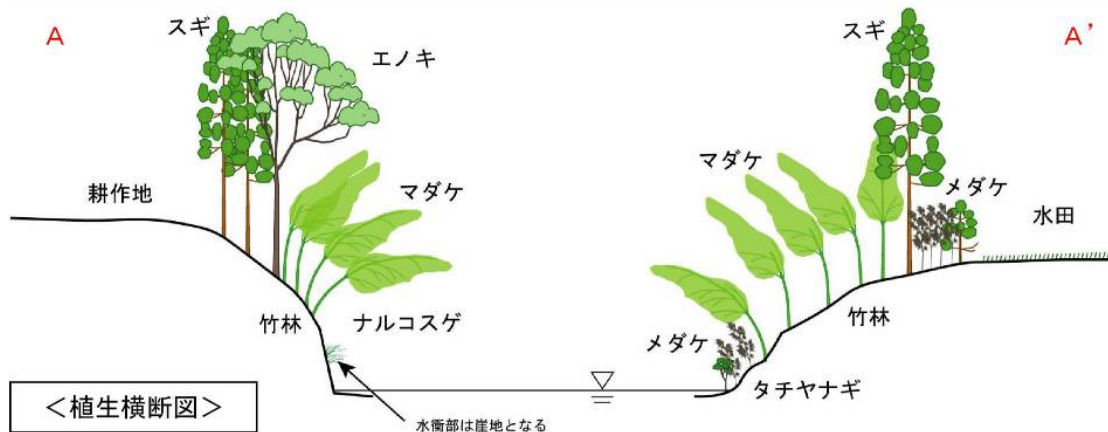
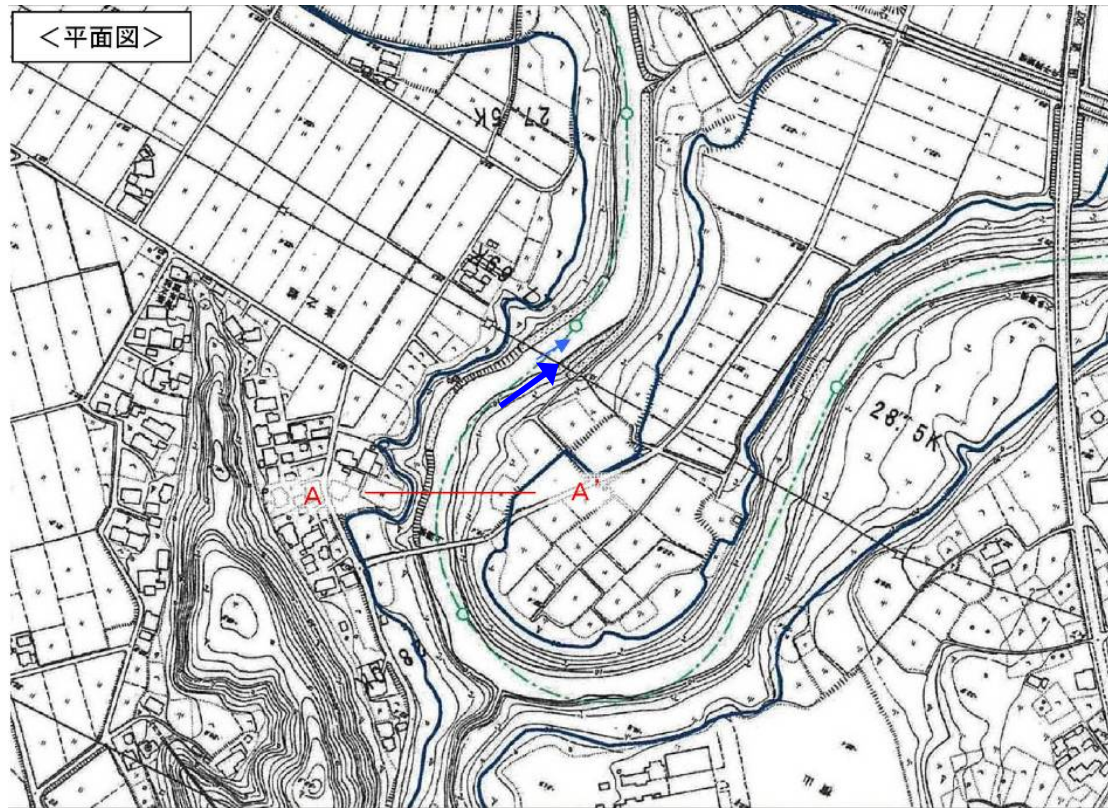
第1回(春季)	2008年3月7日
第2回(夏季)	2009年9月4日

踏査箇所

No.	踏査地点	地点概要
1	28.0km地点(大多喜・上瀑橋)	河道拡幅区間
2	15.0km地点(万木橋)	河道拡幅・築堤区間
3	6.5km地点(桑田湾曲部)	築堤区間
4	2.5km地点(みさき橋)	築堤区間

3.各地点での踏査結果

(1) 大多喜・上瀑橋(28.0km地点)



<この地点で留意すること>

左岸: 崖地の水衝部であり、自然な地形が維持されているので、改修にあたっては、極力この形状を保全されたい。

右岸: 水裏部で砂が堆積している上に植生が生えている。
改修にあたっては、同様の環境が再生できるよう、掘削面の勾配等に配慮する。
また、掘削する場合は表土を取り置き、掘削後に表面にまくと、植生の回復が早まる。

3.各地点での踏査結果

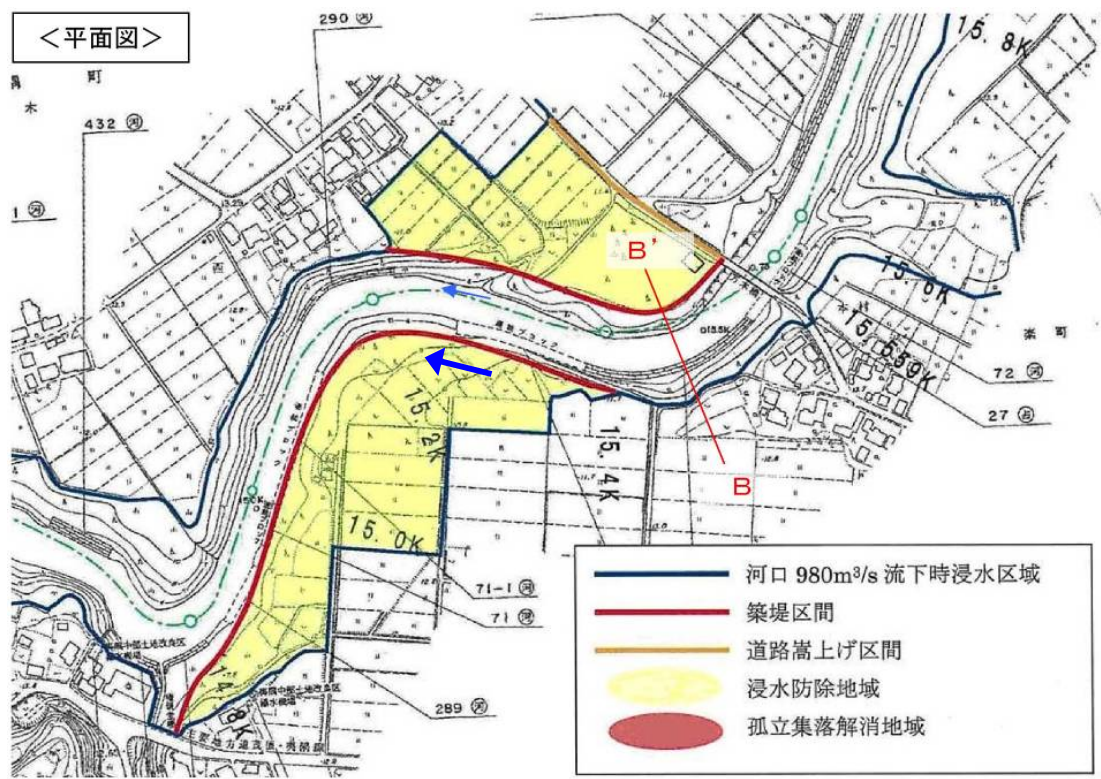
(1) 大多喜・上瀑橋(28.0km地点)





万木橋

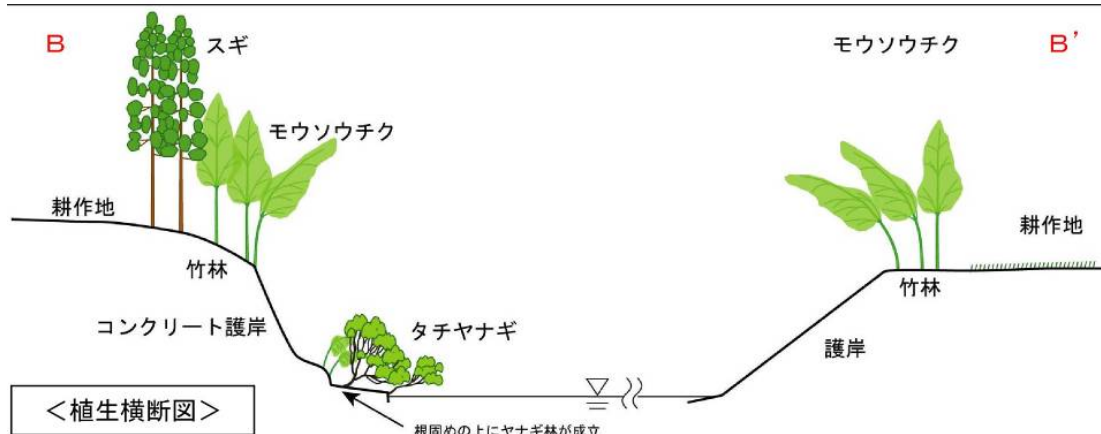
(2) 万木橋(15.0km地点)



左岸:根固めはヤナギで覆われておりよい環境となっている。周囲で同様に改修する場合には、この形状を参考にするとよい。

左岸:植生横断図地点の下流側にあるアカメヤナギ林は、改修により影響を受けるが、二次的な林なので問題にはならない。

右岸:カゴマットによる護岸が設置され、植生が見られる。カゴマットは土が詰まらなければ植生回復が遅くなるため、経過を観察し、植生回復状況によっては周囲の土砂をかぶせるなどするとよい。



3.各地点での踏査結果

(2)万木橋(15.0km地点)



万木橋から下流
(根固めの上にヤナギ林)



万木橋から下流
(カゴマツト上に植生)



アカメヤナギ林

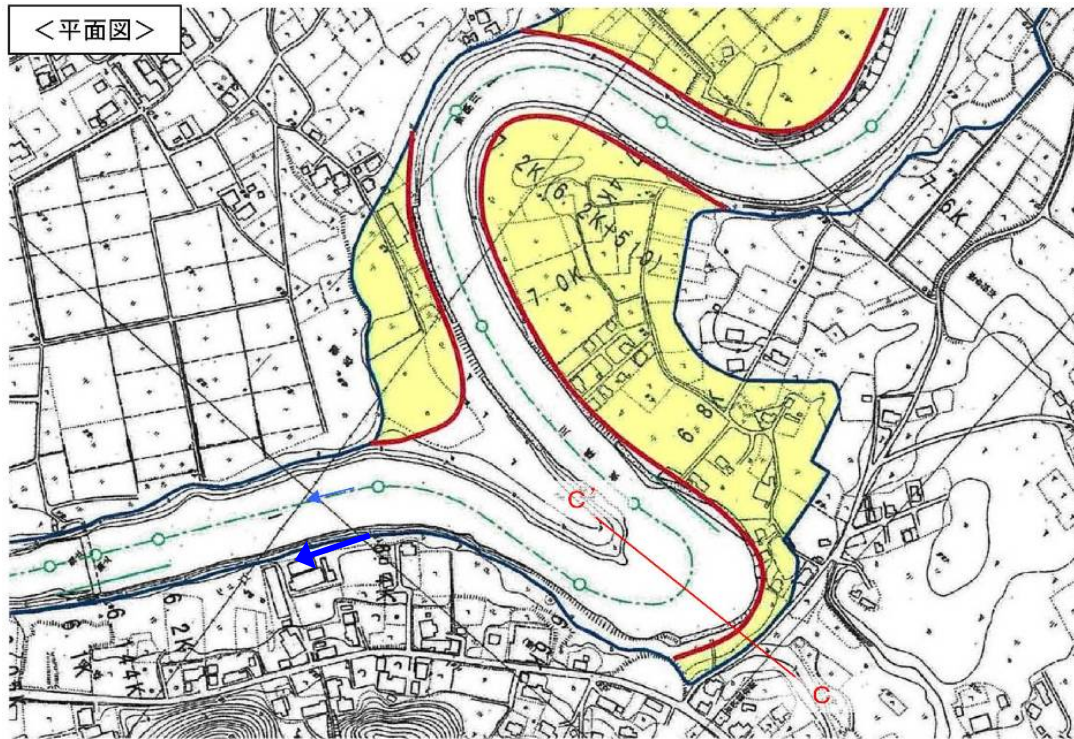


水際に堆積した砂



3.各地点での踏査結果

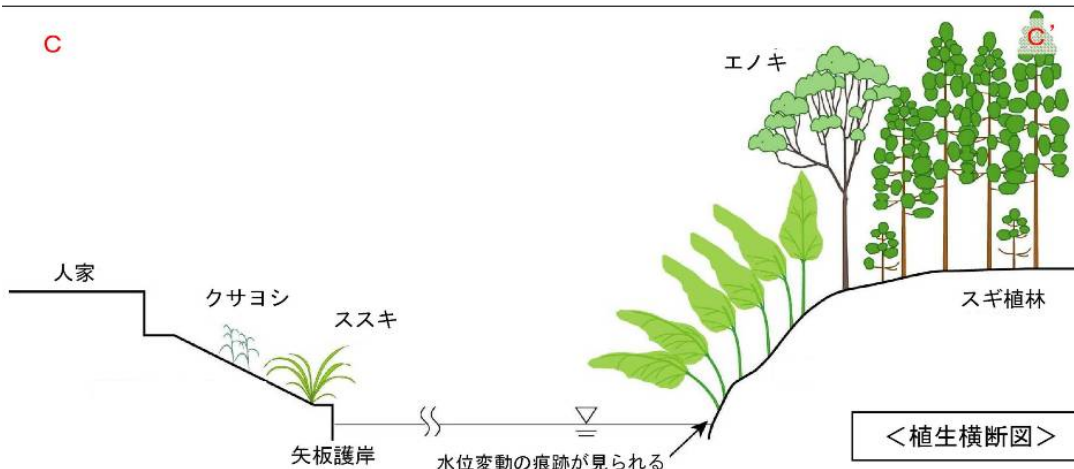
(3) 桑田湾曲部(6.5km地点)



<この地点で留意すること>

左岸: 民家により改変されているため、特に留意することはない。

右岸: 水辺はマダケやメダケ、平坦地にスギやコナラ、スダジイ、タブノキなどが生育する環境が自然に近い植生となっている。湾曲の突端部は典型的な自然の植生分布を見ることができる。可能であれば、突端部は残すように配慮されたい。

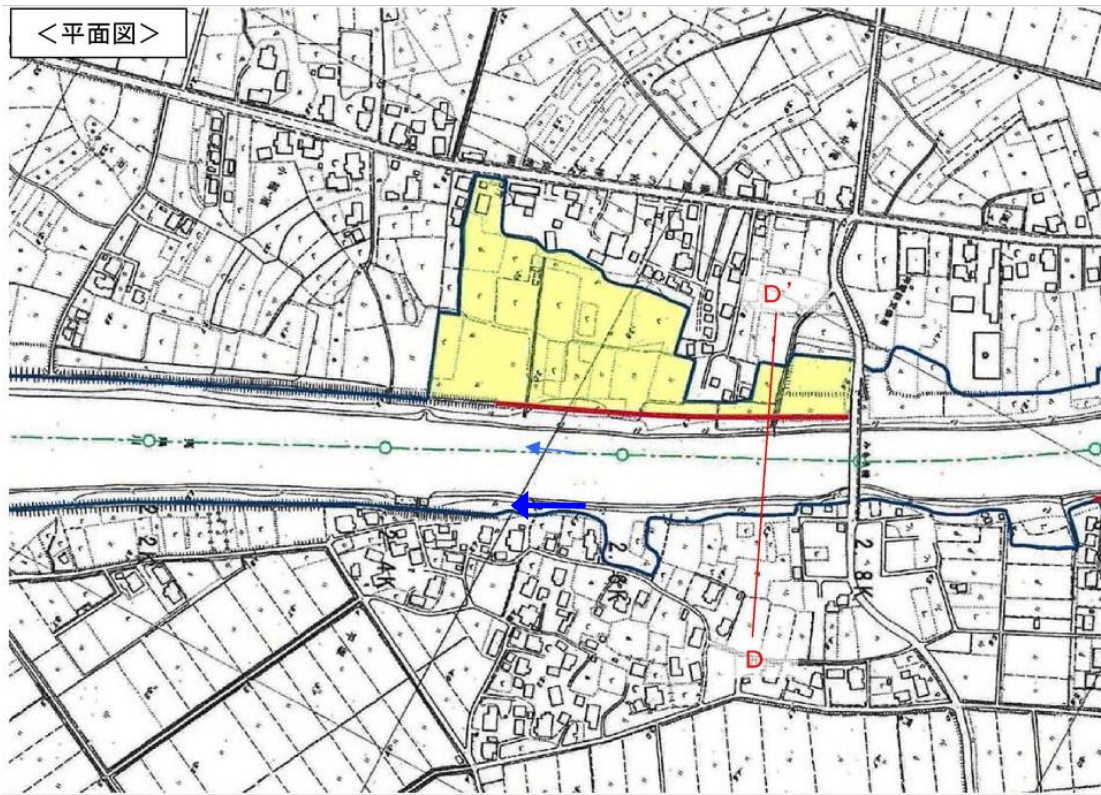




みさき橋(2.5km地点)

3.各地点での踏査結果

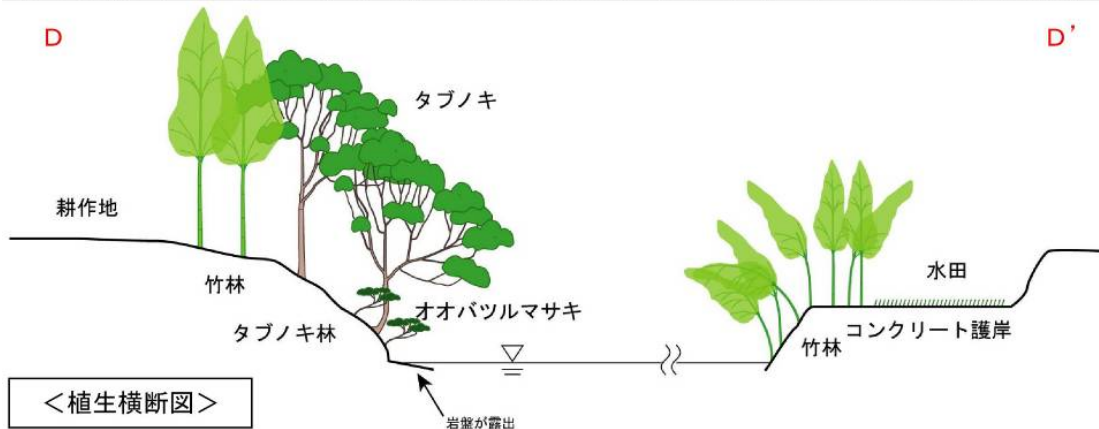
(4) みさき橋(2.5km地点)



<この地点で留意すること>

左岸: タブノキ林は、マダケ林からタブノキ林へと変化しつつある林である。自然な環境が維持されていることから、タブノキ林は残すように配慮されたい。

右岸: 人為的に改変され、竹林およびコンクリート護岸となっている。改修にあたっては、対岸や上下流と景観的に調和するよう、植生回復に努めたい。



<植生横断面図>